

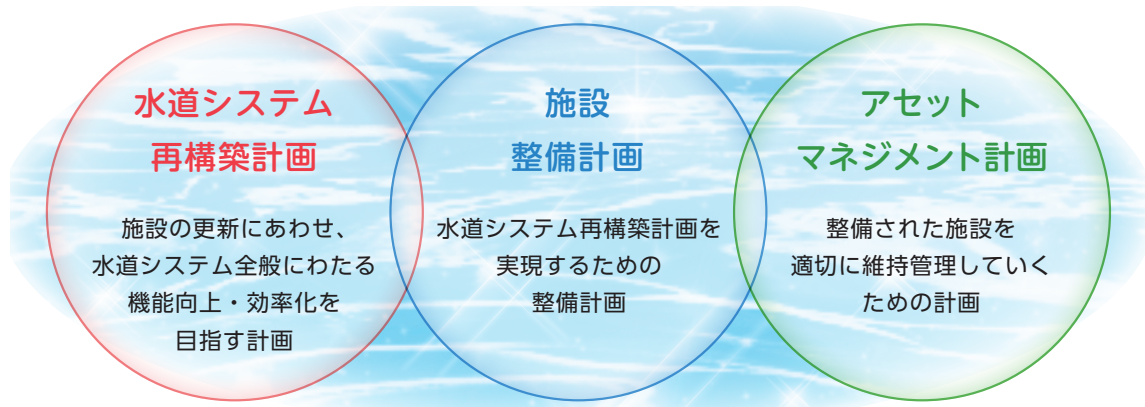
本市では、平成21年度に『塩尻市水道長期基本構想』を策定し、60年後の将来を見据えた水道事業の目標を定め、それに基づいた長期的な施設整備方針をとりまとめました。長期基本構想は主に、水道施設の整備をどのように進めていくかといったハード面での長期計画となります。

この長期基本構想を踏まえて、同じく平成21年度に『塩尻市水道ビジョン(第1期ビジョン)』が取りまとめられました。これは、長期基本構想に基づく平成22年度から平成31年度までの10年間の水道施設の整備実施計画であると同時に、給水サービスの向上や組織体制の強化、財政計画の健全化等、ソフト面も考慮した計画となっています。

3.1 塩尻市水道長期基本構想の概要

長期基本構想は、平成21年度現在の本市水道事業の課題を抽出し、それを踏まえてまとめられた水道施設の整備・更新・維持管理に関する長期的(60年間)な計画です。

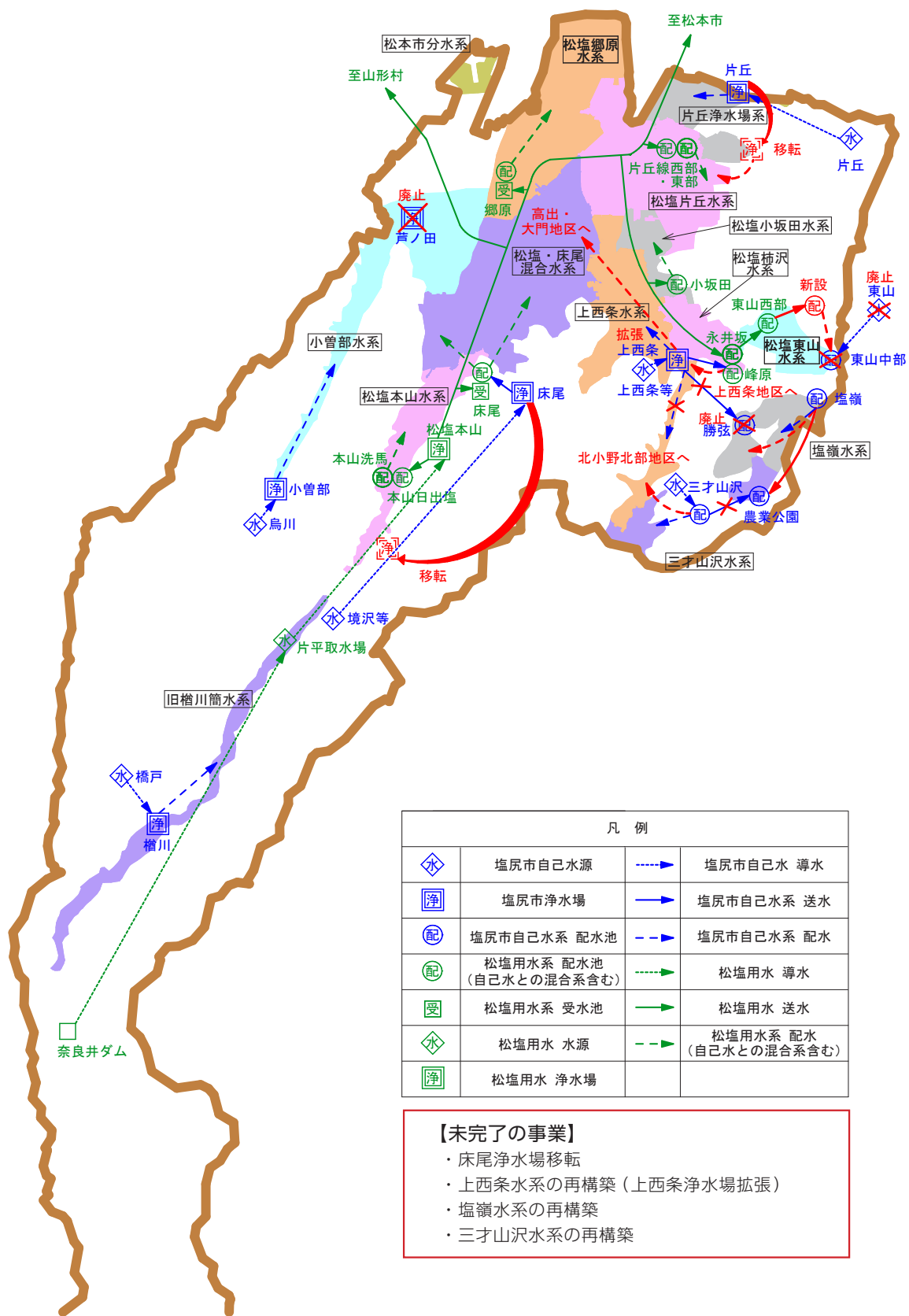
長期基本構想は『水道システム再構築計画』、『施設整備計画』、『アセットマネジメント計画』の3つの計画を基本としています。



長期基本構想にて水運用の効率化やコストの縮減等を考慮して策定された『水道システム再構築計画』の模式図を次頁に示します。

芦ノ田浄水場の廃止、床尾浄水場や片丘浄水場の移転更新、上西条浄水場の拡張等の水運用の見直しによる施設再構築案がまとめられ、第1期ビジョンの計画期間においても、この計画に基づき施設整備に関する事業が進められてきました。

【塩尻市水道長期基本構想における水道システム再構築計画による水運用計画図】



3.2 第1期ビジョンの施策と進捗状況

平成21年度に策定された第1期ビジョンでは、以下の5つの政策目標に沿って施策が決定され、それに基づいて事業を実施してきました。第1期ビジョンの施策一覧とその進捗状況を18頁及び19頁にまとめます。

- ①安心：安全でおいしい水道
- ②安定：災害や事故に強い水道
- ③持続：健全な経営で信頼される水道
- ④環境：環境に配慮した水道
- ⑤管理：適切に管理された水道

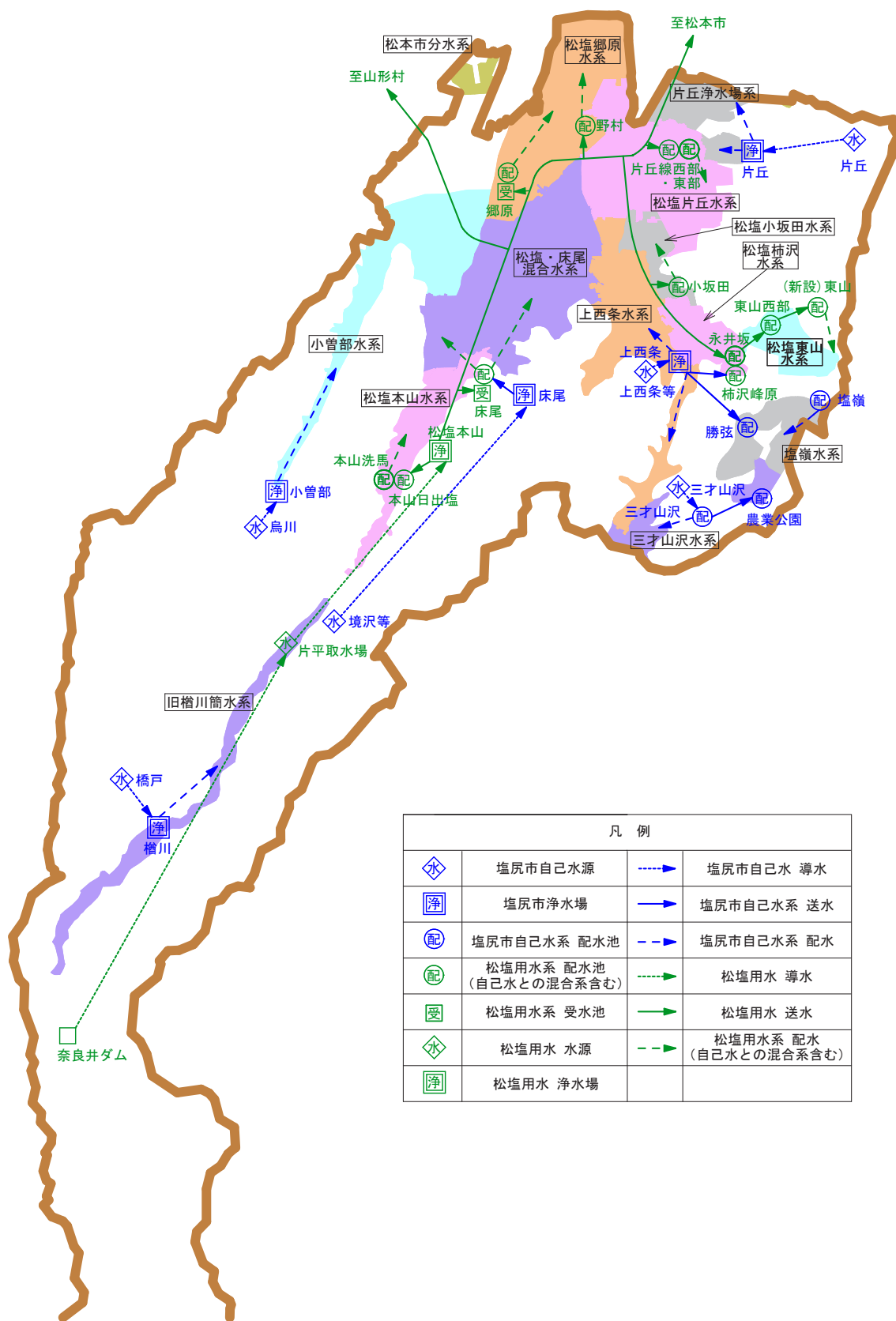
これらの施策のうち施設整備に関するものについては、水需要や財政状況等の事業環境の変化により、改めて実施可否の検討が必要になったものもあります。特に、水道システム再構築計画に基づく上西条浄水場の拡張や床尾浄水場の移転更新については、技術面・財政面から再度検討が必要な状況であり、詳細な調査・検討を行ったうえで計画を見直す必要が出てきました。また、施設や管路の耐震化や老朽化の解消事業については、短期間で終了するものではなく、計画的に実施していかなければなりません。

さらに、利用者サービスの向上やコスト縮減、環境負荷低減等の取組は将来にわたって継続しなければならない事業であり、第2期ビジョンにおいてもこれを踏まえて、政策目標や実施施策の検討を行っています。

【第1期ビジョンの施策体系】



【令和元年度末現在の塩尻市水道における水運用現況図】



第1期 塩尻市水道ビジョン施策体系と実施状況

基本理念 自然と調和し、信頼と親しみのある水道を未来へつなぐ

分類	政策目標	実 現		
		施策(大区分)	施策(小区分)	項 目
安心	安全でおいしい水道	水道水質の維持向上	浄水水質の向上	片丘浄水場の更新 沓沢水源・芦ノ田浄水場の統廃合 東山水源の廃止 麓川地区の水源・浄水場の廃止
			給水過程での水質劣化防止	錆鉄管の解消 鉛製給水管の解消
		水質管理体制の強化	水質管理の充実	水安全計画の策定 水質検査の充実
			貯水槽水道への関与	受水槽の調査 受水槽の管理指導の実施
安定	災害や事故に強い水道	施設の耐震化	土木・建築構造物の耐震化	中央監視設備の移転 基幹施設の耐震化
			管路の耐震化	石綿管の解消 錆鉄管の解消 主要管路の耐震化 水管橋の耐震化 耐震管の採用
		危機管理体制の強化	バックアップ体制の強化	水系間連絡管の整備 配水ブロック化の実施 自家発電設備の整備
			応急給水体制の整備	応急給水拠点の整備 危機管理マニュアルの策定
持続	健全な経営で信頼される水道	水道システム効率化によるコスト縮減	水道システム再構築事業の実施	片丘浄水場移設更新事業 東山水系水道システム再構築事業 上西条水系水道システム再構築事業 塩嶺アルプス・塩嶺白樺水系水道システム再構築事業
			有効率の向上	漏水調査の実施 老朽管の更新 塩嶺地区の配水管及び給水管の布設替え 鉛製給水管の解消
		財政基盤の強化	適正な財政運営	建設工事に係るコスト縮減や事務改善に係る経費節減 水道料金賦課徴収の適正化 適正な料金水準の検討
			事業形態の最適化	松塩用水との関係の検討 松本市からの分水の検討 簡易水道事業の上水道事業への統合
		技術基盤の強化	技術の継承と技術者の確保	人員配置の適正化 人材育成計画の策定・運用 民間委託の検討
			給水サービスの向上	情報公開とPRの推進
利用者サービスの向上	インターネットサービスの促進 水道料金賦課徴収のサービス向上 給水装置修繕サービスの継続			
環境	環境に配慮した水道	地球温暖化の防止	省エネルギーの推進	水道システムの効率化 再生可能エネルギーの導入 省エネルギー機器の導入 低公害車の導入 日常業務での環境負荷低減
			資源リサイクルの推進	浄水処理時に発生する汚泥の減量化 建設副産物の有効利用
		水環境の保全	水環境の保全活動の実施	水道水源保全地区指定の検討 市民・団体との協働による水環境保全
管理	適切に管理された水道	計画的かつ効率的な施設維持管理	施設の維持管理水準の向上	アセットマネジメントシステムの運用 配水流量計の更新 不要施設の撤去 マッピングシステムの維持・向上
		継続的な事業運営管理	PDCAサイクルの実行	定期的な事業検証・改善の実施 事業運営状況の公表

方 策	実 施 状 況	
概 要 及 び 目 標		
老朽化により水質の安全性が低い片丘浄水場を更新する。	完了	
他の水源より水質の悪い沓沢水源・芦ノ田浄水場の統廃合を図る。	完了	平成25年度に休止。次回認可時に廃止予定。
クリプトスピリジウムや維持管理に不安のある東山水源を廃止する。	完了見込	令和2年度に切替え予定。
水質・水量の両面で課題のある贛川地区の水源・浄水場を休止する。	完了	
平成25年度までに100%解消を目標とし、赤水等の濁水軽減を図る。	継続	継続して事業を実施。
平成31年度までに100%解消を目標とし、鉛汚染を解消する。	完了	面的整備は完了。
計画策定により水源から給水栓に至る水道システム全体の安全性の向上を図る。	完了	
水安全計画や水質基準見直しなどにあわせて水質検査計画（検査地点・項目・頻度等）を充実する。	継続	継続して事業を実施。
平成23年度までに有効容量10m3以下の受水槽の管理状況を把握する。	※	生活環境課に移管。
平成24年度以降の貯水槽水道指導率を100%とし、受水槽の安全性の向上を図る。	※	生活環境課に移管。
耐震性が不足している床尾浄水場から新上西条浄水場に移転する。	検討中	
平成31年度までに浄水施設耐震率を100%にする。	継続	継続して事業を実施。
耐震性が著しく低い石綿管を平成25年度までに100%解消する。	完了	面的整備は完了。
耐震性が著しく低い鑄鉄管を平成25年度までに100%解消する。	継続	継続して事業を実施。
重要度や老朽度の高い管路から優先して実施し、効果的な耐震化を図る。	継続	継続して事業を実施。
重要度や老朽度の高い水管橋を耐震化する。	継続	調査は完了。更新時に耐震化を図る。
老朽管の布設替えにあわせて採用し、耐震性の向上を図る。	継続	継続して事業を実施。
松塩用水停止時のバックアップ機能向上を図る。	検討中	水道システム全体の見直しを含めて検討が必要。
郷原吉田配水区域の配水ブロック化を実施し、破損事故等の影響範囲を狭くする。	検討中	今後も検討する。
新規に整備する浄水場・ポンプ場に設置するほか、可搬式設備を1基装備する。	継続	機場の整備時には自家発電設備の設置を継続。
配水池への緊急遮断弁及び給水設備が設置された応急給水拠点を整備し、緊急時の貯水を確保する。	完了	
活用しやすいマニュアルを策定し、緊急時の行動の効率化を図る。	継続	実用的なマニュアルを作成する。
片丘水系の施設再編を実施し、ポンプ施設削減等の効率化、ライフサイクルコストの低減を図る。	完了	
東山水系の施設再編を実施し、ポンプ施設削減等の効率化、ライフサイクルコストの低減を図る。	完了見込	令和2年度に切替え予定。
上西条水系の施設再編を実施し、沓沢水源・芦ノ田浄水場の統廃合等の効率化、ライフサイクルコストの低減を図る。	再検討	水道システム全体を踏まえて再検討が必要。
配水管及び給水管の布設替えを実施し、漏水防止によるライフサイクルコストの低減を図る。	検討中	費用対効果を含めた事業実施の検討が必要。
継続して実施し、漏水防止によるコスト縮減を図る。	継続	今後も継続が必要。
漏水の多い塩化ビニール管の更新を進め、漏水防止によるコスト縮減を図る。	継続	長期的に実施していく必要がある。
配水管及び給水管の布設替えを実施し、漏水防止によるコスト縮減を図る。	継続	長期的に実施していく必要がある。
平成31年度までに100%解消を目標とし、漏水防止によるコスト縮減を図る。	完了	面的整備は完了。
共同施工、工事施工期間の調整、事務改善などによるコスト縮減や経費節減に努める。	継続	継続して事業を実施。
料金システムの更新や賦課徴収業務の民間委託化を検討し、適正化を図る。	完了	
定期的に財政計画を見直し、世代間の公平性にも配慮した適正な料金水準とする。	継続	継続して事業を実施。
より望ましい事業形態や実現方策について、関連事業体と調整を図り検討する。	継続	継続して事業を実施。
費用対効果に配慮し、松本市と調整を図り検討する。	継続	継続して事業を実施。
水道料金体系や財政面において最適な統合のあり方を検討する。	完了	平成29年度に事業統合。
効率的かつ効果的な技術継承を行うための人員配置を検討する。	継続	継続して事業を実施。
効率的かつ効果的な技術継承のため、人材育成計画を策定し育成する。	継続	継続して事業を実施。
浄水施設の運転管理業務など高度な技術力を継承する必要がある分野の民間委託を検討する。	継続	継続して事業を実施。
定期的に発行し、水道事業への関心を高める。	継続	継続して事業を実施。
内容を充実させ、水道事業への関心を高める。	継続	継続して事業を実施。
イベント、展示会、出前講座、施設見学会などを通じて水道事業の啓蒙活動を実施する。	継続	継続して事業を実施。
名前募集や各種広報・イベントで活用し、水道への親しみを高める。	継続	継続して事業を実施。
イベント等で活用し、安全でおいしい水のPRや水道事業への関心を高める。	終了	生産終了。
インターネットサービスの促進による利用者の利便性向上を図る。	継続	継続して事業を実施。
料金システムの更新や賦課徴収業務の民間委託化の検討などにより、利用者の利便性向上を図る。	継続	継続して事業を実施。
メーター1次側の修繕サービスを継続し、利用者の負担軽減を図る。	継続	継続して事業を実施。
水道システム再構築事業や有効率向上対策によりエネルギー消費を低減する。	検討中	見直し・改善必要。
片丘浄水場、上西条浄水場の新設時に積極的に導入し、エネルギー消費を低減する。	検討中	費用対効果を含めた検討が必要。
機器更新時に選定し、エネルギー消費を低減する。	継続	継続して事業を実施。
公用車の買替えやリース時に検討し、エネルギー消費を低減する。	継続	継続して事業を実施。
ISO14001に沿った活動を継続し、エネルギー消費を低減する。	継続	継続して事業を実施。
高濁度時の取水量調整など減量化対策、上西条浄水場の拡張により、汚泥発生量を減らす。	継続	汚泥の減量化に引き続き取り組む。
工事に伴うAs塊・Co塊・土砂・不要資材等のリサイクルを継続する。	※	生活環境課に移管。
対象地区の選定・指定の検討を行い、水道水源の保全を図る。	※	生活環境課に移管。
各種活動を協働して実施し、市域の環境保全に寄与する。	※	生活環境課に移管。
平成22年度より運用し、延命化等による維持管理コスト縮減を図る。	継続	詳細なアセットマネジメントを実施予定。
計量精度が危惧される配水流量計を更新し、計量の適正化を図る。	継続	継続して事業を実施。
休止中で不要な施設を撤去し、住民の安全性の確保と維持管理コストの縮減を図る。	継続	継続して事業を実施。
情報の充実を図るとともに、統合GISの導入にあわせて再構築を実施し、事務の効率化を図る。	継続	継続して事業を実施。
各施策の進捗状況、目標達成状況等を定期的に検証・改善し、効率的かつ効果的な事業実施を図る。	継続	継続して事業を実施。
上記を公表し、水道利用者の理解を得ながら事業を進める。	継続	継続して事業を実施。